

みちのく八雲会会報

編集/発行 みちのく八雲会

2010.1.11 第2号

〒983-0851 仙台市宮城野区榴ヶ岡5番地 みやぎNPOプラザ内

レターケースNo.7 まちづくりNPOげんき宮城研究所気付

☎ 090-7526-7826(門間) FAX 022-256-0533

E-mail: genkimiyagi@yahoo.co.jp

【2010年度 へるんサロンの開催】

ラフカディオ・ハーン 【小泉八雲】を読む会

(2010年1月～2010年12月:日時変更ある場合は会場に告知します)

開催地	仙台市	石巻市
	みやぎNPOプラザ 宮城野区榴ヶ岡5	あとリエDaDa 石巻市八幡町2-2-13
会場		
日時	2月20日(土) 13:30 4月17日(土) 13:30 6月19日(土) 13:30 8月21日(土) 13:30 10月16日(土) 13:30 12月4日(土) 13:30	1月21日(水) 13:30 3月20日(土) 13:30 5月20日(水) 13:30 7月17日(土) 13:30 9月16日(水) 13:30 11月20日(土) 13:30
参加費	500円(資料代)	
申込み	FAX 022-256-0533 または ☎ 090-7526-7826(もんま)	

【2010年度 松江市訪問:八雲会交流会】 詳細未定(決定次第ご案内します)

【2010年度 協働事業】 字幕スーパー入りDVD教育紙芝居「稲むらの火」制作

【2009年度 実施事業】

①へるんサロン開催(仙台、石巻、気仙沼、多賀城)



松江市&八雲会取材



ゆるる取材



DVD鑑賞

③DVD教育紙芝居「稲むらの火」制作
原作:小泉八雲



②講演会開催: DVD教育紙芝居「稲むらの火」制作完成記念
演題:「小泉八雲から現代を考える～防災・共生・五感力～」
講師:小泉凡氏(八雲ひ孫、島根県立大学短期大学部教授 民俗学)



講演会



みちのく八雲会交流会

みちのく八雲会様

自然と共生する
考えた八雲と
おまのこ紙芝居
2009年 秋 小泉凡
小泉 凡

みやぎNPOプラザ事務ブース

H21.12.1入居



2009年(平成21年)11月13日 金曜日 (6)

石巻日日新聞

石巻日日新聞社

〒986-0874

石巻市双葉町8番17号

電話 0225-95-5231

FAX 0225-94-4720

郵便番号 986-0874

石巻日日新聞社 2009

Hibi-net
http://www.hibishinbun.com
info@hibishinbun.com

小泉凡さん講演会 八雲から現代を考える



八雲のひ孫である小泉凡さんが講演した

講演会「小泉八雲から現代を考える」防災・共生・五感力(みちのく八雲会主催)が先日、石巻市八幡町の川辺りの散歩道あとりえDadaで開かれた。小泉八雲(ラファディオ・ハーン、1850-1904年)のひ孫で、島根県立大学短期大学部教授の小泉

凡さんが講話。身内ならではのビデオを交えながら、現代にも通じる八雲の視点を紹介した。

凡さんは、大学で民俗学、比較文化、地域文化、八雲に関する授業を担当し、八雲の文化資源的活用についての実践・研究を行っている。八雲会がDVD紙芝居を製作した、八雲原作の「稲むらの火」や友人に宛てた手紙などから、八雲が現在に伝えたメッセージをひも解いた。

八雲が日本人の国民性を「石の家を築いて災害に抵抗するのではなく、災害のたびに破壊される簡素な木造建築を建てる。災害時にみせる卓抜した回復力と忍耐力がある」ととらえていたことを挙げ、自然と共生する点

に共感していたと紹介。一方で、自然災害の原因となる森林伐採に警鐘を鳴らしていた。

また、精霊や樹木信仰などに関心をもち、「異界を畏怖する心が、人間にとつて一番大切な想像力を生み出す。物質世界だけでは豊かになれない」と懸念。教育分野においても想像力を育むことが不可欠とし、家庭教育の大切さ、知識の詰め込みではなく自分の将来や自立を考える時間の必要性を伝えていたという。

凡さんは、「八雲は左眼を失明したことで、五感を研ぎ澄まして世の中を見つめた人。文化資源として活用してもらえたらうれしい」と締めくくった。

八雲会報 2009.12.10

全国の顕彰団体を訪ねて

―酒田から熊本まで―

園部 昭夫

6月の富山・京都市行きを皮切りに、各地の小泉八雲の顕彰団体を松江市と八雲会のメンバーがペアを組み、手分けして歴訪した。

来年、平成22年は小泉八雲の来松(来日)120年、生誕160年に、また松江開府400年祭の4年目にあたる、この節目の年に「国際文化観光都市・松江」の礎となった小泉八雲の功績をあらためて顕彰する契機とすることを目的として、松江市と八雲会は記念事業を企画している。その準備の一環として、今回の全国行脚となった。

これまでに八雲会も個人的にあつた。訪ねたことはあつたが、理事会のメンバーが市の担当課のメンバーと、全国に点在する顕彰団体を訪ねたのははじめてのことであり、八雲会、松江市にとつても画期的なことであつた。

日ごろ交流のある酒田、仙台、富山、焼津、京都、隠岐、広島、熊本と、多くは例会に参加し、そのあとで懇談・意見交換をする

というパターンが主であつた。週末にスケジュールが集中し、かなりの強行軍であつた。対応してくださった訪問先の皆さんにもご負担をおかけし恐縮しています。

当然のことながら、各地それぞれに団体の成り立ち、ゆかりの事跡・施設の有無、活動の規模など、状況は異なり顕彰のあり方も様々であつたが、顕彰活動を通じて地域の文化に、教育に貢献し、生かしたいという熱い思いが一樣にひしひしと感じられた。

今回の顕彰団体との交流を参考に、来年は一人でも多くの皆さんに集っていただき、松江市民とともに、小泉八雲の精神を現在・将来にどう生かすかを議論し、また共に楽しむ場をと、準備委員会で検討中である。

なお、各地の「沿革・活動状況」について、会報42号/みちのく八雲会(仙台)43号/ラファディオ・ハーン(会)44号/洛北盛年団(京都)、本号/富山八雲会に寄稿いただいています。